

# 『2024 年度兵家連』(連携重視事業)

(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会)

## 1. 事業が目指すところ

『精神科医療の未来を皆で考えよう』をテーマにして、医療・福祉関係者、精神障害者当事者や家族、そして、行政の方々を対象に開催を目指しました。精神障害者の家族は、神出病院等の精神科病院での虐待事件から、精神科病院に疑問を持つ場合もありますが、家族が発症した場合は、精神科病院に入院せざるを得ません。即ち、家族は精神科病院と良好な関係を持っておく必要があります。このためにも、精神科の先生方と一緒に精神科医療の未来を討議することを企画しました。

## 2. 活動内容

2月より毎月準備委員会を開催し、テーマについて、特に時間を掛けて検討し、その後、講師の選定・交渉を行いました。この検討期間こそが、事業の成功に繋がるものと考えていました。

## 3. 成果や課題

大会では、精神疾患の母親を持つクリニックの精神科医より、現在の精神疾患治療の問題点と改善のための提案がありました。その後、精神科病院長や精神保健福祉士協会会長と兵家連会長を含めて精神科医療の未来について討議しました。当日は、180人の参加者と160人のweb参加で合計340人の参加となりました。精神科病院の入院のみでは精神障害が寛解するのは中々難しく、地域での福祉サービスと病院との共生社会が必要である、このためにも精神科病院が地域に出て精神疾患の治療のための福祉サービスに参画し、訪問支援等も進めていかねばならない、等貴重な意見交換をすることが出来ました。

## 4. 今後の展望と成果の活用

日本の精神科医療は、世界で最も病床数が多い国であり、2040年に向けて病床数を半減する方向性が国から打ち出された。いわゆる2040年問題です。

精神科病院も変わっていく時代に来ている。そのためにも、病院と地域での連携・共生された精神科治療が進めて行けるように、精神障害者を持つ家族が意見を言える場を今後も模索していきたい。

